



千葉労働新聞

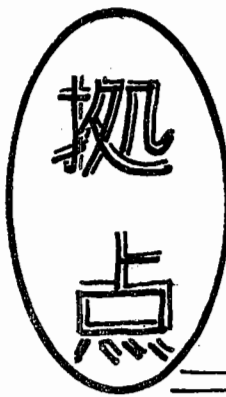
国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

96.3.27 No. 4366

— 貨物格差を許すな！ —

3・29 春闘第二波ストへ！



新小岩・佐倉 地上勤務者



津沼/京葉/木更津/
館山/鴨川/いすみ/
千葉転/銚子/幕張/
総武/成田/

3月29日、13時～

●JR各社の回答状況●

会社名	昇給率(%)	平均昇給額(円)
東海	3.01	10,300
西日本	3.01	10,050
九州	2.79	8,889
四国	2.78	8,445

第二波ストを闘いぬこう！
全支部から、新小岩、佐倉へ
全力で結集しよう。

春闘をめぐる状況は、三月二日の東海、西日本会社の回答の後、二七日には九州、四国会社の回答が行われた(左の一覧表参照)。
しかし、われわれは、この会社間格差を絶対に許すことはできない。
この会社間格差こそ、分割・民営化の矛盾の現れであると言わなければならぬ。
貨物への格差回答粉砕！「JR体制」打倒へ三・二二春闘

春闘そつちのけで 組織抗争

JR総連・革マルの組織的危機が決定的に深まっている。
三月二〇日に開催されたJR東労組の中央執行委員会は、何と、旧鉄労・社員労出身の副委員長、執行委員計四名の「組合員権停止」の処分を決定した。
また、当局には、直ちに「専従併除届」が提出された。理由は、この四名が、昨年九月十五日に「権された友愛会(旧鉄労)系会議に出席したことを「組織裏の画策をした」としてのものである。

この会議には、東労組委員長、労出身の管家(かんげ)もでいたと言われている。しかし、家は現在入院してしまっている。この日の執行委員会には出席していない。処分により、東組執行部中革マルでない者は、家を除けばわずか一名になった。まさに、革マルまる裸状態になったのである。
三月二〇日と言えば、二二日、二二日の九六春闘集中回答日の前日である。JR東労組・松崎は、春闘の最中、春闘などそつちのけで、旧鉄労・社員労グループとの組織抗争を繰りひろげざるを得ない事態に至っている

のだ。JR総連・革マルの危機は、いよいよ決定的な段階に至った。今こそ、JR総連解体の闘いに全力で決起しよう！
孤立し連帯する相手もいない
二月六日に開催されたJR東労組中央委員会で総括答弁にたつた。嶋田(書記長)は、次のように述べざるを得なかった。
「九五年、JR東労組は要するに孤立を余儀なくされた。連帯を求めても連帯する相手がいない。大衆行動を起こしても益々孤立するだけだ。大衆行動をして孤立を余儀なくされるようなことはもう一切やる気はない。九六年の戦略は組織を守ることだ」
と。まさに絶望感に打ちひしがれた発言だ。しかしいまや、その守るべき組織もガタガタだということである。これが、当局の力のみを頼りに、奴隷となつて生きてきた彼らの末路だ。JR総連を解体・一掃しよう！